

凡例 入力項目分類 (数字は入力の優先順位)

1. 毎回入力項目 : 2重括弧 (毎回入力をしていただく項目)
2. 変更のみ入力項目 : 1重括弧 (前回からのデータ変更及びデータ追加があれば入力していただく項目)
3. 1回のみ項目 : 括弧なし (1回のみ入力すればよい項目)

日付項目

- 「不明」にチェックする場合 : プロジェクト開始以前のため、カルテ等で避れない場合のみにして下さい。
 年月のみ判明している場合 : 年月は判明している情報を、日は「不明」を入力して下さい。

追加

1回の入力でシートを追加して入力可能

前回の内容をコピー

前回調査の入力をコピーして入力可能

(疾患) 認知症

疾患の定義

一度正常に達した認知機能が後天的な脳の障害によって持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態または、すでに認知症と診断され、薬物治療等が行われている。

日本神経学会 認知症治療ガイドライン 2010 を参照

認知症の診断基準 (DSM-IV-TR)

- 満たす 満たさない

DSM-IV-TR による認知症診断基準

A. 多彩な認知障害の発現。以下の2項目がある

- 1) 記憶障害(新しい情報を学習したり、以前に学習していた情報を想起する能力の障害)
- 2) 次の認知機能の障害が1つ以上ある:
 - a. 失語(言語の障害)
 - b. 失行(運動機能は障害されていないのに、運動行為が障害される)
 - c. 失認(感覚機能が障害されていないのに、対象を認識または同定できない)
 - d. 実行機能(計画を立てる、組織化する、順序立てる、抽象化すること)の障害

B. 上記の認知障害は、その各々が、社会的または職業的機能の著しい障害を引き起こし、また、病前の機能水準からの著しい低下を示す

C. その欠損はせん妄の経過中にもみられるものではない

認知症発症時期

[]年 []月 []日 不明

認知症分類

- アルツハイマー病
 血管性認知症
 混合型(アルツハイマー病+血管性)
 他疾患による認知症
 その他(分類不能または病型不明)

前回の内容をコピー

認知機能検査

改訂版長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)

 実施 未実施 不明

検査日 []年 []月 []日 不明

HDS-R []点

ミニ・メンタル・ステート・エグザミネーション(MMSE)

 実施 未実施 不明

検査日 []年 []月 []日 不明

MMSE []点

前回の内容をコピー

全般的重症度

- なし(0点)
 疑い(0.5点)
 軽度(1点)
 中等度(2点)
 重度(3点)
 不明

CDR (Clinical Dementia Rating) の判定方法については別紙を参照してください

前回の内容をコピー

介護保険主治医意見書

- あり なし 不明

記載日 []年 []月 []日 不明

日常生活自立度(寝たきり度)

- 自立
 J1
 J2
 A1
 A2
 B1
 B2
 C1
 C2
 不明

認知症高齢者の日常生活自立度

- I
 IIa
 IIb
 IIIa
 IIIb
 IV
 M
 不明

認知症の中核症状

短期記憶

- 問題なし
 問題あり
 不明

日常の意思決定を行うための認知能力

- 自立
 いくらか困難
 見守りが必要
 判断できない

自分の意思の伝達能力

- 伝えられる
 いくらか困難
 具体的要求に限られる
 伝えられない
 不明

認知症の周辺症状 あり なし 不明

- | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 幻視・幻聴 | <input type="checkbox"/> 妄想 | <input type="checkbox"/> 昼夜逆転 | <input type="checkbox"/> 暴言 |
| <input type="checkbox"/> 暴行 | <input type="checkbox"/> 介護への抵抗 | <input type="checkbox"/> 徘徊 | <input type="checkbox"/> 火の不始末 |
| <input type="checkbox"/> 不潔行為 | <input type="checkbox"/> 異食行動 | <input type="checkbox"/> 性的問題行動 | |

CDR (Clinical Dementia Rating)

	なし 0点	疑い 0.5点	軽度 1点	中等度 2点	重度 3点
記憶	記憶障害なし 軽度の一貫しないもの 忘れ	一貫した軽いもの忘れ 不完全な想起 “良性健忘”	中等度の記憶障害 特に最近の出来事に対 するもの 日常活動に支障	重度の記憶障害 高度に学習した記憶は 保持、新しいものはす ぐに忘れる	重度の記憶障害 断片的記憶のみ残存す る程度
見当識	見当識障害なし	時間的関連性に軽度の 障害がある以外は見当 識障害なし	時間的関連に中等度の 障害があり、検査では 場所の見当識良好、他 の場所で時に地誌的失 見当	時間的関連性に重度の 障害がある 通常時間の失見当、し ばしば場所の失見当あ り	人物への見当識のみ
判断力と問題解 決	日常生活での問題解決 に支障なし 過去の行動に関して判 断も適切	問題解決、類似や相違 の指摘における軽度の 障害	問題解決、類似や相違 の指摘における中等度 障害	問題解決、類似や相違 の指摘における重度の 障害	問題解決不能
			社会的判断は通常、保 たれている	社会的判断は通常、障 害されている	判断不能
地域社会活動	通常の仕事、買い物、 金銭の管理、ボランテ ィア、社会的グループ で通常の自立した機能	左記の活動に軽度の障 害がある	左記の活動のいくつか に参加できるが、自立 した機能を果たすこと はできない 一見正常	家庭外では自立不可能 一見して家庭外の活動 にかかわれるように見 える	一見して家庭外での活 動に参加できるように は見えない
			軽度しかし明らかな家 庭生活の障害 複雑な家事の障害、複 雑な趣味や関心の喪失	単純な家事手伝いのみ 可能 非常に限られた関心が わずかにある	家庭内で意味のある生 活活動はできない
家庭状況および 趣味・関心	家庭での生活、趣味や 知的関心は十分保たれ ている	家庭での生活、趣味や 知的関心が軽度に障害 されている	軽度しかし明らかな家 庭生活の障害 複雑な家事の障害、複 雑な趣味や関心の喪失	単純な家事手伝いのみ 可能 非常に限られた関心が わずかにある	家庭内で意味のある生 活活動はできない
介護状況	セルフケアは完全にで きる	時に励ましが必要	着衣、衛生管理、身繕 いに介助が必要	本人のケアに対して多 大な介助が必要。 頻回な失禁	

CDR の判定方法

1. 最も重視するカテゴリーは記憶です。

例: 記憶のみが 0.5 点、その他はいずれも 0 点の場合、総合判定は 0.5 点になります。

2. 次に重視されるのが、見当識と判断力・問題解決です。

しかし、見当識または判断力のみが 0.5 点で、その他はいずれも 0 点の場合は、総合判定は 0 点となります。

この点にご注意ください。

3. ばらけた場合は、基本的に最も多く占めるカテゴリーの点数が総合判定の点数になります。

様々なパターンにおける総合判定は、「CDR 総合判定例」をご参照ください

CDR 総合判定例

表 1

	0	0.5	1	2	3
記憶		○			
見当識	○				
判断力	○				
社会適応	○				
家庭状況	○				
介護状況	○				

CDR の総合判定は 0.5 点

表 2

	0	0.5	1	2	3
記憶	○				
見当識		○			
判断力	○				
社会適応	○				
家庭状況	○				
介護状況	○				

CDR の総合判定は 0 点

見当識のみ 0.5 点でも総合判定は 0 点です。
つまり、記憶カテゴリーのみが 0.5 点の場合に限って、総合判定は 0.5 点となります。

表 3

	0	0.5	1	2	3
記憶				○	
見当識				○	
判断力				○	
社会適応			○		
家庭状況			○		
介護状況			○		

CDR の総合判定は 2 点

記憶、見当識、判断力の 3 つが同じ点であれば、そのほかのカテゴリーに関係なくその点数が総合判定の点数になります。

表 4

	0	0.5	1	2	3
記憶		○			
見当識		○			
判断力		○			
社会適応			○		
家庭状況			○		
介護状況			○		

CDR の総合判定は 0.5 点

このような分布はまずないですが、記憶、見当識、判断力の 3 カテゴリーにひっぱられます。

表 5

	0	0.5	1	2	3
記憶				○	
見当識			○		
判断力			○		
社会適応			○		
家庭状況			○		
介護状況		○			

CDR の総合判定は 1 点

この場合、記憶のみが高いですが、最も多いカテゴリーの点数が総合判定となります。

表 6

	0	0.5	1	2	3
記憶		○			
見当識			○		
判断力			○		
社会適応			○		
家庭状況		○			
介護状況	○				

CDR の総合判定は 1 点

このようなパターンは希ですが、1 点のカテゴリーが 3 つと最多ですので 1 点になります。

表 7

	0	0.5	1	2	3
記憶			○		
見当識			○		
判断力		○			
社会適応		○			
家庭状況	○				
介護状況	○				

CDR の総合判定は 0.5 点

1 点、0.5 点、0 点に位置したカテゴリー数が 3 つとも一緒の場合は、中間の点数になります。

表 8

	0	0.5	1	2	3
記憶				○	
見当識			○		
判断力				○	
社会適応			○		
家庭状況		○			
介護状況		○			

CDR の総合判定は 1 点

こんな分布になることはまずないですが、カテゴリー数が同じですので中間をとって 1 点となります。

表 9

	0	0.5	1	2	3
記憶	○				
見当識	○				
判断力			○		
社会適応			○		
家庭状況			○		
介護状況	○				

かなり稀なパターンですが、前頭側頭型認知症の場合はこんな分布になります。

前頭側頭型認知症は、記憶は比較的保たれ、社会行動面での障害が顕在化するためにこんな分布になることが多いです。

しかし、この場合の総合判定は 0.5 点です。

つまり、記憶が 0 点で、そのほかのカテゴリーから 1 点以上になる場合、総合判定は 0.5 点となります。

CDR 判定は記憶を最重視する判定故に、このような点数配分になります。